

講演「関西経済の新たな挑戦」(要旨)



財団法人 関西社会経済研究所
所長 本間 正明

[今年の白書の特徴と切り口]

今回の「関西経済白書」は、マクロ経済とミクロの産業をどうつなぐかという問題意識をもって取り組んだことが一つの特徴である。もう一つは、政策提言の部分を充実させようということで、自治体を新たな章として取り上げたことである。

従来の「関西活性化白書」は事実を並べるとい性格が強かったが、諸事実の間にストーリーがなければ、意図が伝わらない。切り口の一つは、関西経済の時系列的な動きを整理し、どの要素が重要かを把握すること、もう一つの切り口は、日本経済とのリンク、他地域(関東圏・中部圏)との相違を押しえて、関西圏の特徴を浮き彫りにすることである。

[関西経済の特徴]

関西経済は感応度の低い経済である。すなわち、他地域よりも好景気のスタートが遅く回復が遅れる。山は高く谷は深い。グローバル化、市場化、情報化の動きが激しい中で、関西経済が復活し、生き残っていくためにはこの点を是正しなければならない。そうでなければ、生き残りは難しいのではないかという危機感をわれわれは持っている。

関西・関東・中部の3地域の特徴を、経済の両輪である製造業とサービス業に注目して要約すると、関東はサービス業をいち早く成長させた。中部は製造業を強くすることによってプレゼンスを高めている。関西は、良く言えば、製造業とサービス業のバランスがとれた経済である。これを強みにするために今後の一層の努力が必要である。

現在の関西製造業の再生は、中国、アジアの台頭に負うところが大きい。神風によって息をついているともいえる。しかし、非製造業では、情報化への取り組みで関西は関東に比べて大きく遅れている。

情報化は、人がモノに変わるということだけではない。商取引の慣行にも影響する。関東型は一般的な情報を活用しながらの消費活動であるのに対して、関西の消費者は、家族、友人、地域など人間臭い情報をもとに消費活動を行ってきた。テレビショッピングは、人間臭い情報と一般的な情報との中間的な情報でアピールするビジネスモデルの成功事例である。

マーケティングは情報化と密接に関係している。従来のビジネスモデルにとらわれたことが、関西の卸・小売業が立ち遅れた要因の一つである。これは商業だけでなく、多くの分野にも関連する。人間臭い経済がすばやい対応を遅らせてきた。

ただし、「人間臭い経済」は強みにもなりうる。サービス化や高齢化の流れの中で、また、地域や社会保障のあり方が模索される中で、人と人の対話を大切にする関西の風土を、関西の発展に寄与する要素として有効活用していくべきであろう。

[関西経済の課題——人・モノ・金を関西に]

製造業とサービス業のバランスが良いという関西経済の現在の姿を初期値として、グローバル化、情報化、高齢化の一層の進展の中で、その特徴を活かし、マイナス部分は小さくしていく——このことが企業レベル、行政レベルにおいて求められている。国としてのきちんとしたシステムづくりはもとよりだが、それに合わせてわれわれが前向きな対応をとれるか否かが関西経済の大きなテーマである。

人・モノ・金の流れを関西にいかにか引き寄せるかがポイントである。国際化というとモノを売ると考えがちであるが、現在では、貿易収支の黒字よりも所得収支の黒字の方が大きい。

1990年代に加速した海外直接投資による雇用の海外流出と、長期にわたって続いている関西から国内他地域への人口の流出という2つの流れが関西を直撃している。人だけでなく、金も他地域、他国へ流出している。経済の活性化のためには人と金が地域にやってくることが決定的に重要なテーマである。

アジアの拡大で関西経済はしばらくは大丈夫と思うが、「アジアがこければ、関西こける」というリスクがある。このリスクに保険を掛けて次のステップにつなげていくことが大切である。そのためにはまず、国・地方のあり方など制度改革とインフラ整備が重要である。関西には何ができるか。秋山関経連前会長の私案である「夢洲ロジスティック・コンプレックス構想」の実現も目指すべきであろう。

次に、関西らしいホスピタリティで多くの人を引き寄せる必要がある。関西の観光ネットワークはまだ不十分である。例えば、上海という大きな需要がある。九州の由布院には韓国人や中国人が多数訪れており、多くの観光案内がハングル語、中国語で書かれている。

さらに、国内の人をどう引き寄せるかも重要である。我々は企業側の人の流れだけを見がちであり、生活者としての人に十分な配慮ができていない。関西の大学を卒業し他地域に出て行った人にリタイア後に戻って来てもらうことも考えられる。リタイア世代が住みたくなる地域にしなければならない。知識人が関西に止まり、地域のリーダーになってもらう、例えば、北ヤードでロボットやバイオの研究ができるインフラを整備するといったことも重要である。「人引き寄せ競争」において、生産拠点および生活拠点として魅力ある関西を構築しなければならない。

今年の白書では行政の問題も取り上げた。残念ながら、関西の自治体は成績が悪い。公的部門をチェックしていくことは市民の義務および責務である。市民、NPO、経済界などが一体となって公共部門を監視していく必要がある。

国際化・情報化・高齢化が進む中で関西モデルを構築し、人が訪れる、移住してくる、投資をしたいと思う地域を作っていくことが大切である。プロジェクトはそれを助長するものである。実現すればいいという一過的な考えを改め、十分な将来価値を生み出すキチンとしたプロジェクトを推進していくことが大事である。

【おわりに】

「関西活性化白書」から「関西経済白書」への単なる名称変更にとどまらず、来年も関西経済の特徴を浮き彫りにし、将来に備える政策提言等に結び付けていきたい。皆様方もそれぞれの立場で愛する地域のプレーヤーとしてご活躍いただき、企業レベル、生活者レベルにおいて主体的に、活力と魅力ある関西づくりに力を合わせていただきたい。

(平成 19 年 6 月 1 日開催「2007 年度関西経済白書」報告会・講演会
第 II 部 講演：「関西経済の新たな挑戦」)